

# 西大和つうしん

2016年 9月号

No.411



澗沢岳山頂より、奥穂高岳～ジャンダルム～西穂高岳へと延びる尾根筋を望む  
眼下には白出のコルに張りつく穂高岳山荘 <2016年8月11日>

奈良県勤労者山岳連盟

## 西大和山の会

# 西大和つうしん

第411号(2016年9月号)

## 【目 次】

9月度山行計画	1
9月度・10月度カレンダー	3
山行・行事等参加メモ	4
山行報告	
・自主山行 《7/26-30》 北アルプス 榎海新道(石田)	5
・自主山行 《8/7-10》 北アルプス 白馬岳・唐松岳(橋本・野路・亀井)	8
・自主山行 《8/9-13》 北アルプス 穂高岳縦走(林・玉越・船江)	11
・例会山行 《8/21》 越美山地 能郷白山(玉越)	15

## 夏山自主山行計画(9月)

北アルプス 大キレット 《南岳～北穂～奥穂～前穂高岳》

【日 程】2016年9月3日(土)～7日(水) (L 島崎)

【集 合】近鉄佐味田川駅 13:00

【コース】《9/3》佐味田川駅(13:00 発)⇒新穂高駐車場(仮泊)

《9/4》新穂高温泉(6:00 発)～白沢出合～檜平小屋～南岳小屋(泊)

《9/5》南岳小屋(6:00 発)～A 沢のコル～北穂山頂～涸沢岳～穂高岳山荘(泊)

《9/6》穂高岳山荘(6:00 発)～奥穂高岳～前穂高岳～岳沢小屋～上高地  
⇒新穂高温泉(泊)

《9/7》新穂高温泉===王寺 帰着予定 21:30 頃

## 9 月 度 山 行 計 画

～搜索の訓練を通じて、地図読みとルートファインディングの実践を～

例会山行3(教育山行) 《広域搜索訓練》

【主 催】奈良県連救助隊

【日 程】2016年9月4日(日) (L 杉川)

【コース】実施フィールド(山域・山名):未定

※実際に遭難が発生した場合の搜索をシミュレーションするのが本訓練の目的となるため、直前まで搜索のフィールドや搜索方法など具体的内容は明らかにされません。

※訓練の詳細・タイムスケジュール等は9月2日(金)開催の「県連遭難対策会議」にて決定されます。会議終了後当日中に、集合場所・集合時刻・配車等を参加者に通知する予定です。

※参加者は8月31日(水)の室内例会にて募集します。救助隊員だけでなく、広く会員の皆様のご参加をお願いします。

## 例会山行1 信貴生駒 《千光寺～信貴山》

【日 程】2016年9月11日(日) (L勝尾)

【集 合】近鉄元山上口駅 AM 9:30

【コース】元山上駅～千光寺～鳴川峠～十三峠～信貴山(入浴)～王寺

【歩行時間】約5時間

※ 信貴山にて入浴後、王寺にて暑気払いを予定しています

～ハケ岳の主峰・赤岳に登頂して展望を楽しみましょう～

## 例会山行2 (テント山行) ハケ岳 《赤 岳》

【日 程】2016年9月24日(土)～25日(日) (L辻)

【集 合】9月24日 王寺駅南口 5:00 出発

【交 通】王寺駅⇒香芝IC⇒(名阪道・中央道)⇒諏訪南IC⇒美濃戸

【コース】

《24日》美濃戸口～(1h30分)～美濃戸～(2h30分)～行者小屋(テント場泊)

《25日》行者小屋～(地藏尾根 1h30分)～地藏の頭～(1h)～赤岳～(文三郎尾根 1h30分)～行者小屋(テント撤収)～(2h)～美濃戸～(1h)～美濃戸口

【歩行時間】9/24:4時間、9/25:7時間

※帰宅予定：王寺駅(22:00～23:00頃) ※帰路入浴と夕食を予定

## 10月度山行計画

～のんびりと里山を歩きましょう～

## 例会山行1 矢田丘陵 《松尾山・矢田山》

【日 程】2016年10月2日(日) (L多賀)

【集 合】JR法隆寺駅(北口) 8:30 出発

【コース】法隆寺駅～(15)～法隆寺～(45)～松尾寺～(15)～国見展望台～(30)～頂上展望台～(4)～矢田山～(18)～緑ヶ丘休憩所～(10)～小供の森～(22)～小笹ノ辻～(35)～足湯～(35)～南生駒

【歩行時間】約5時間(休憩含む)

※帰着予定 王寺駅 15:00頃

# 西大和山の会 カレンダー

9月			10月		
1	木		1	土	
2	金		2	日	例会山行1 松尾山~矢田山(多賀)
3	土		3	月	
4	日	県連・広域捜索訓練(杉川)	4	火	
5	月		5	水	
6	火	県連理事会	6	木	
7	水		7	金	
8	木		8	土	
9	金		9	日	
10	土		10	月	
11	日	例会山行1 生駒~信貴山(勝尾)	11	火	
12	月	暑気払い	12	水	
13	火		13	木	
14	水		14	金	
15	木		15	土	
16	金		16	日	教育山行《未定》(藤本)
17	土		17	月	
18	日		18	火	
19	月		19	水	西大和つうしん原稿締切
20	火		20	木	
21	水	西大和つうしん原稿締切	21	金	
22	木		22	土	
23	金		23	日	例会山行2 県連交流山行《るり溪~深山》(今井)
24	土	例会山行2	24	月	
25	日	テント泊山行 八ヶ岳・赤岳(辻)	25	火	
26	月		26	水	10月度室内例会(19:30)
27	火		27	木	
28	水	9月度室内例会(19:30)	28	金	
29	木		29	土	
30	金		30	日	
			31	月	

# 山行・行事等参加メモ

No	氏名 (入会順)	8/31 室内 例会	9/3-7 夏山 大キレット	9/4 広域 搜索 訓練	9/11		9/24 -25 テント泊	10/2 松尾山 矢田山			
					生駒 信貴	暑気 払い					
1	(窪田)										
2	都築										
3	藤井						○				
4	(石田)						○				
5	多賀						○	LO			
6	田中悦						◎				
7	島崎		L◎				○				
8	田中初										
9	村田										
10	林						○				
11	辻						L◎				
12	勝尾										
13	藤本						○				
14	杉村		○				○				
15	高橋										
16	玉越										
17	杉川			L◎							
18	阪口										
19	橋本		○				○				
20	今井		○				○				
21	亀高						◎				
22	松浪										
23	亀井										
24	船江						○				
25	野路		○				△				
26	中						○				
27	杉森						○				
28	上田										
	合計		5				15				
	緊急 連絡先		辻								

L:リーダー、○:参加、◎:車

# 山行報告

## 夏山自主山行

### 北アルプス最北の地 樺海新道 朝日岳～親不知

【日 程】7月26日(火)～30日(土)

【参加者】L 辻・SL 島崎・今井・石田 (4名)

7月27日(水) (曇り)

【コース】北又小屋(6:37)～イブリ山(11:10/40)～夕日ヶ原(13:20)～朝日小屋(14:00)〔泊〕

夜明け前から雨模様だったがすぐにやみ、北又小屋を出るころには、雲が多いものの晴れそうな予感。つり橋を渡ったらブナ坂の急登のはじまり、1合ごとに休みながらゆっくりと登る。4合目の坂をあえぎながら越えたら、ブナの大木が茂るブナ平。



6合目で、前日土砂降りの雨でも登っていた地元朝日中学校の生徒達が下山してくるのに会う。朝日町町長も参加されていて、全員元気そのもの。7合目辺りから植生がブナからダケカンバや針葉樹などにかわり、登山道の所々に巨大な水芭蕉



もみられる。イブリ山で早い目の昼食をとり、馬の背を過ぎ、斜面に草原の広がる夕日ヶ原へ、今年は少雪で雪渓も早く消えたので夏の植物が終わってニッコウキスゲ以外にキンコウカ、カライトソウなど秋の草花が咲いている。結局、サルと中学校以外の登山者に全く会わないで朝日小屋に着く。

7月28日(木) (曇り時々晴れ)

【コース】朝日小屋(5:27)～朝日岳(6:32)～吹上のコル(7:12)～黒岩山(10:37/11:07)  
～サワガニ山(12:30)～犬ヶ岳(14:23)～梅海山荘(14:42)〔泊〕

『これから長丁場なので朝ごはんしっかり食べていかれよ』と小屋の清水ゆかりさんのアドバイスで朝食後ガスの中出発。弁当用に今年からゆかりさん吟味のささずしが販売される。ハイマツ林の中の朝日岳からの眺望は、雪倉、白馬、白馬旭、清水岳とうっすらと剣岳方面がわかる程度。山頂直下に大きな雪渓が残り、ウルップソウは花が終わっていたが、シロウマアサツキ、ハクサンコザクラなどお花畑も広がっ



ている。蓮華温泉への分岐、吹上のコルから梅海新道に入る。樹林、湿地、草地と池塘が点在する上り下りのくりかえし、ほどなく長梅山の二重稜線内の照葉の池のほとりに出る。大きな池がいくつか並び、人の気配もなく、ニッコウキスゲが咲きみだれ、山の稜線にいることを忘れてしまいそう。やや急な下りのほうが多くなり、さらに同じような地形が続く。アヤメが咲き誇る斜面を下りきってからのアヤメ平、全くアヤメが見られない。川を数回よこぎって黒岩平へ、天候によっては難渋しそう。その先の黒岩山から振り返ると広大な草原の向こうに朝日岳まで幾重にも山があるように見える。行く手は、幅の狭い稜線がうねっている。救いは、樹林帯であることぐらいか。



うんざりするほど上り下りのくりかえしをして、サワガニ山と犬ヶ岳の鞍部の水場で補水後、ガシテナイフエッジの犬ヶ岳山頂へ、さらに10分ほどで梅海山荘にたどり着く。やぶに板を渡しただけのトイレがワイルド！夜半眠りにつこうとすると

小一時間ほど雨がトタン屋根を叩く。夜中に、外に出てみると星がまたたき、青海町のセメント工場や故郷の町の灯が見えてセンチメンタルに！

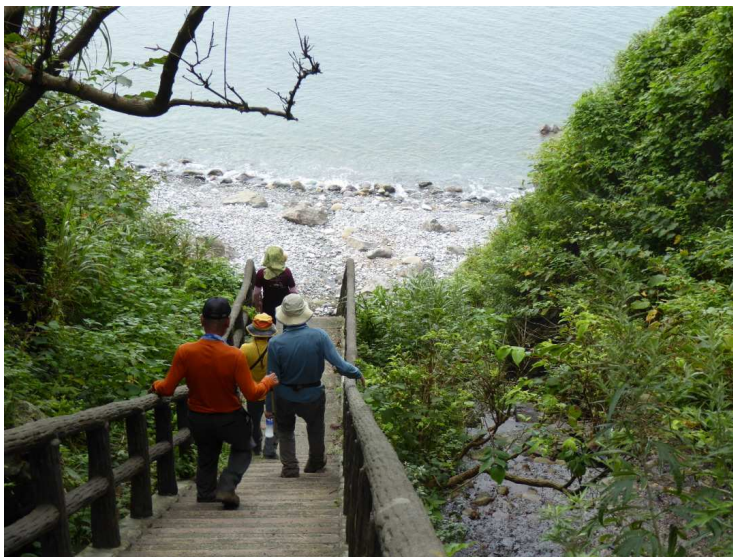
7月29日(金) (晴れ時々曇り)

【コースタイム】 梅海山荘(4:55)～菊石山(6:53)～白鳥山(9:00/24)～坂田峠(11:31/12:01)  
～尻高山(12:48)～入道山(14:04)～梅海新道登山口(15:22/31)～親不知  
(15:42) [泊]

明るくなってから出発。登山道は山荘のすぐ横から向きを直角に変え、急下降、ひたすら下りる。木々の間から赤い色の山荘が天空に聳え立つように見える。相変わらずの稜線歩きで、場所によってはブナが多く、気持ちのいい時々切り立った崖やガレに注意をしながら、やはり急な上り下りの



繰り返しである。アンモナイトの化石が取れたという菊石山、立派な小屋のある白鳥山、山姥伝説のある金時坂の急下降、途中シキ割りの水で一息、気を取り直して古の北陸路（親不知の難所を避けた山道）の坂田峠に降り立つ。昼前の熱い日差しの下広い駐車場はがらんとしている。旅人や橋立金山でにぎわった頃に思いをはせながら昼食を済ませ、石仏の横から杉林の中の緩やかな山道を上る。が、ブナ林になり、上り下りの連続、はるか下方に親不知港が見えて、やっと尻高山に着く。途中、立派な舗装道路を横切り、海が見えてもブナ林が続いている。熊のふんにちょっと緊張しながら、古の二本松峠をすぎたあたりから杉林になり、次第に下降がきつくなる。下方から、高速道路の女性アナウンスの声が聞こえ、鉄塔の下を通過し



たら、工事中の林道に出る。林道から下の杉林は切り払われ国道8号線親不知観光ホテルが一望できる。梅海新道入口のアーチもなくなり、標識が立つのみで、あっけらかんとして下山する。

小休止後、海岸まで下りる。朝日小屋からご一緒した熊本の吉田さんも、中の湯（焼岳）から日本海までの北アルプス単独縦走を無事踏破されました。お疲れ様でした！

(記：石田千栄子)



## 夏山自主山行

# 北アルプス 白馬岳 2,932m～唐松岳 2,695.9m

【日 程】8月8日(月)～11日(木)

【参加者】L 島崎・今井・橋本・亀井・野路(5名)

8月9日(火)(晴れのち雨時々曇り)

【C-タイム】猿倉荘(5:55)～白馬尻小屋(6:55/7:15)～大雪渓(7:45)～雪渓終了(9:15/9:30)～白馬山荘(12:50)〔泊〕



縦走第一日目。白馬山荘迄標高差約1,600mを登る。好天になることを願いながら猿倉荘を出発。1時間ほど歩くと白馬尻小屋に着く。そこから白馬岳、杓子岳に囲まれた大雪渓に入る。例年は雪道となっているところが雪不足の影響なのかガレ場になっていて歩きにくい道が続く。雪道になりアイゼンを装着。雪渓には石が

あちこちにあり、これが落石した石なのかと思いついて「ドーン」と大きな音がある。「もしや落石?・・・」とヒヤーンとした(雪解けで雪渓が崩れた音の様だった)。私は、4本爪のアイゼンを付け歩いたが、歩きにくく何回も滑ってしまい余計な力が必要。4本爪を使った他のメンバーも「歩きにくいので6本爪の方がいい」との感想。

雪渓を登り終えたのち雨が降り出す。登山道は、非常に滑りやすくなり、石を落とさない様又、自分が滑らない様注意し歩く。時折青空が見え少しは気持ちも楽になり周りの山容を眺め又、花を愛でながら一歩一歩と言いつつ聞かせ足を運ぶが非常にしんどかった。無事小屋に到着したがガスっている。白馬岳



頂上には、明日の好天を期待し日の出を見に登る事とし初日を終えた。

(記:橋本紀子)

## 8月10日(水) (晴れ)

【コースタイム】 白馬山荘(4:20)～白馬山頂(4:40)～ご来光(4:50)～白馬山荘(5:15/6:10)  
～杓子岳(7:30)～槍ヶ岳(8:35)～天狗山荘(9:35/10:10)～天狗ノ頭  
(10:35)～天狗の大下り(11:10)～不帰の嶮(12:00)～一峰尾根(12:40)～  
二峰尾根北(13:55)→二峰尾根南(14:15)→三峰尾根(14:55)→唐松岳  
(15:20)→唐松岳山荘(16:00)〔泊〕

早朝からご来光を見る為に白馬岳を目指す。他にも沢山の人達が登って行く。昨日とは違って今日は快晴になるようだ。満点の星と暗いが東の空が白みはじめている。暫くすると美しい真っ赤な「日の出ショータイム」が始まった。暫し時を忘れ感動に浸っていた。



朝食を済ませ白馬山荘を後にして、白馬三山の杓子岳、鑓ヶ岳を目指して歩き出す。後のキレットの為に体力温存と言う事で杓子岳は巻道を行き、鑓ヶ岳迄はアップダウンが少しあるものの歩き易い道程であった。やがて鑓ヶ岳が見えて来た。鑓ヶ岳から暫く歩くと白馬槍温泉への分岐になる。鑓温泉へ下ると言う若者と出会う。ガレ道を行くと天狗山荘に着いた。晴れ渡った青い空の下、とても贅沢なティータイムを楽しんで、のんびりとした時を過ごす。天狗ノ頭が過ぎるとしばらくして、天狗の大下りになる。鎖の岩場をすぎると後はガレ場歩きになり、途中不帰の嶮が向こう側に見えて来た。一体どこを登るのか・皆で探す。「多分あそこかな？」と思う場所が見える。遠くから見ると、かなり険しく見える。



大下りを終えた所から不帰の嶮になる。いよいよ険しい岩場や鎖場になる。気持を引き締めて慎重に登って行く。遠くから見ていた印象とは違い慎重に行けばさほど難しい所でなかった。がそれからの唐松岳までの道程は長く、岩場のアップダウンの繰り返し・・・一峰尾根、二峰尾根北、二峰尾根南、三峰尾根と続く。

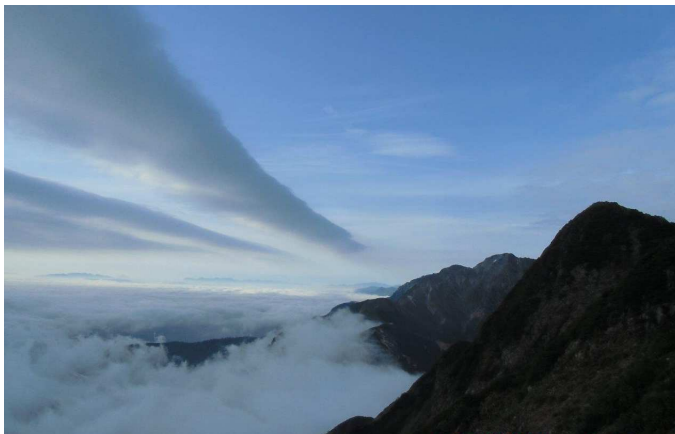
最後は足が疲れて・・・上がらなかった。

唐松岳が見えた時は本当に嬉しかった。唐松岳からは、今日歩いた山並みが見える。かなり長い道程であった。「本当に良く歩いたなあ!!」・・・

やはりメンバーと一緒に歩けたと思います。(記：野路政子)

## 8月11日(木) 晴れ

【コースタイム】唐松山荘(6:30)～丸山ケルン(7:10)～八方池(8:40)～八方ケルン(9:05)～八方池山荘(10:00)～ゴンドラ八方駅(10:50)〔泊〕



昨夕唐松山荘に着いたときは外気温 15℃だったが、今朝は寒く 2℃の表示、その凜とした気温の中、雲海に大きく浮かぶ剣岳、五龍岳、南に槍ヶ岳等々堪能しながら、牛首の分岐を東に巻いてガレ場を歩いて行くと、遙か遠くに富士山が見え、足元にはコマクサが咲き、這松帯をトラバースして下って行くと、稜線に出る。すると昨日歩い

た白馬岳、杓子岳、鑓ヶ岳、天狗の大下り、不帰峯、唐松岳が雲海に浮かび、雄大な景色に感動しながら丸山ケルンに着くと、強風が吹いて、若い女性が上がってきて会話すると、唐松岳迄登って午後 2 時には松本でサッカーを観戦するとの事、今の若い人の行動力には感心した。

ダケカンバの樹林帯になり少し下ると扇ノ雪渓が有り、今年は雪解けが早く例年の半分ぐらいだそう。上ノ華、下ノ華迄来ると、シモツケ草、カライト草、白山ジンジャ、マツムシ草、チングルマの果穂等のお花畑になり、遙か下の方に八方池が見えた。この辺りからすれ違う人が多くなり、八方池まで来ると池に白馬三山が綺麗に池に映り込んで、これまでの疲れが吹っ飛んだ。第2ケルンから先は歩きやすい木道で、お花畑を眺めながら後ろを振り返ると、唐松岳方面へキャンプ用具を担いだ重装備の人、半袖と半ズボンの軽装で歩く人等々、さながら蟻の行列。今日は山の日制定記念日で我々は反対方向からで静に山行できて良かったと思い、八方池山荘まで進めた。



天候の関係で 1 日ずらして最高の山行が出来てリーダーと皆様に感謝します。

(記：亀井稚代)

# 夏山自主山行

## 北アルプス 涸沢岳・奥穂高岳・前穂高岳縦走

【日程】8月9日(火)～13日(土)

【参加者】L 亀高・SL 藤本・林・玉越・船江(5名)

8月10日(水) (晴れ) 上高地～涸沢小屋

【コースタイム】上高地バス丁(5:00)～西糸屋山荘(5:20)～徳沢(8:30/45)～横尾山荘(9:40/55)～本谷橋(11:10/40 昼食)～Sガレ(13:30/40)～涸沢小屋(14:20)〔泊〕

13 日下山時宿泊の西糸屋山荘へ荷物を預けて、明神方向に全員で出発する。途中の自然探勝路の中ほど、通路上で食事の親子連のサルの群れと出会ったが完全無視されてすれ違い、橋を渡って徳沢まで来る。今日からは好天とのTさんの予報通りとなり、梓川左岸の緩い登り道をゆっくりと歩き、横尾山荘で休憩を取る。川を渡り、横尾谷に入ると針葉樹林帯に替り、登山道も狭く急登となってくる。



途中からは、左に屏風岩の壁、右上空に北穂高岳を仰ぎ見ながら、中間点の本谷橋まで登り、川辺まで下りて、沢の水音を味付けにして、行動食のおにぎりを食べる。それから上は、屏風岩の裾を石段で回り込みながら、Sガレまで高度を上げて行く。針葉樹林帯を過ぎて、Sガレからは上に涸沢カールが広がり、快晴の空に穂高連峰のパノラマを見上げることが出来、登頂の期待が広がってくる。涸沢のテント場を左に見ながら、右上へ登る石段を伝い、今日泊まる涸沢小屋へはコースタイムよりやや早く全員無事到着する。



今日は先頭を歩かせてもらい、本谷橋からは自分の体調に合わず様に、歩幅を狭めゆっくりペースで登らせてもらったせいで周りの景色を楽しみ、すこし余裕を残して登ることが出来た。

小屋前のテラスで明日のミーティング。SLのFさんよりのアドバイスとして、明日のルートに関し、天候は良いとしてメンバー全員の経験と技量を考え、今回は安全なエスケープ

ルート①（ザイテングラートを登り、穂高岳山荘に向かう）を選択する事に決め今日の登山を終えた。昨年に続き、快晴の北アルプスに来れた事に感謝して乾杯させてもらいました。（記：林弘文）

## 8月11日(木)（晴れ） 涸沢岳 3103.3m

【コースタイム】涸沢小屋(6:50)～合流点(7:30)～ザイテングラード取付(8:05)～穂高岳山荘(10:00/11:00 昼食休憩)～涸沢岳(11:30/12:15)～穂高岳山荘(12:35)[泊]

当初の計画では、涸沢小屋から北穂高岳に登り涸沢岳を経由して穂高岳山荘へ至る予定だったが、前日皆で話し合った上でルートを変更することにした。行程が短くなったので朝はゆっくり出発できた。今日は記念すべき初めての「山の日」。モルゲンロートは残念ながら見られなかったもののお天気は良く、上高地では大きなセレモニーが行われているそうだ。

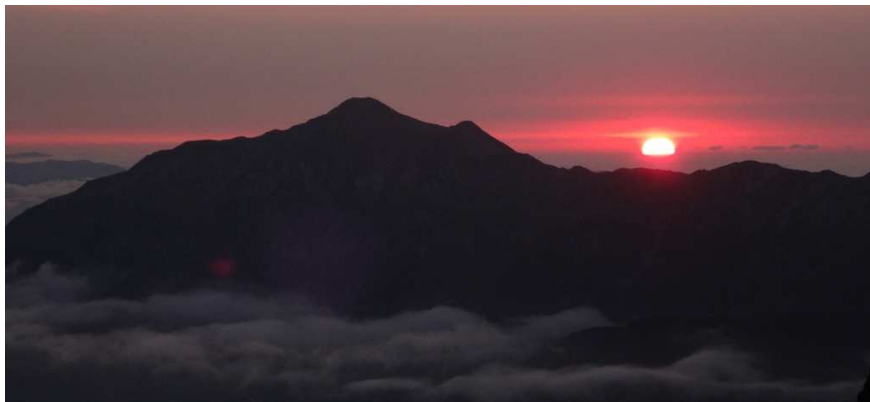
前日上高地から登った同じ高度を今日も登ることになる。涸沢小屋からゆっくり登り始め、約40分でヒュッテからの道と合流する。涸沢岳の山腹をトラバースするように進むと、大きな二つの岩稜帯の間にあるザイテングラード取付に到着する。ここからは手も使う岩場の登りとなり、傾斜も急だ。九十九折りのところがあり、頭上を登山者が歩いている。石を落とさないように、後ろ足にも気を付けながら歩かなければならない。日射しがじりじりと身体を焼くが、時折吹く風が火照りを冷ましてくれた。



穂高岳山荘に到着し早めの昼食を摂る。涸沢小屋のお弁当は、おいなりさんとサツマイモの甘煮でとても食べやすい。休憩後に涸沢岳を目指す。小屋から30分ほどで登頂すると、360度の絶景に圧倒される。槍ヶ岳と穂高の峰々

はもちろん、白山、笠ヶ岳、薬師岳、水晶、立山、常念岳などが青空を背景にぐると並ぶ。山の名前は居合わせた登山者に教えていただいた。いつまでも眺めたい景色だったが、そろそろ次の登山者に譲らなければならない。穂高ほどのスター性はないが、3000m級だしこの絶景！たちまち気に入ってしまった。この涸沢岳を目的地にするのもいい。

18時30分、西の空は真っ赤な夕焼け。めちゃくちゃ寒かったが小一時間も眺めていた。カメラを持ったギャラリーもだんだん増え、夕日が笠ヶ岳の向こうに沈んでしまうと拍手が沸き起こった。



私も、初めての「山の日」を無事に過ごせたことに感謝した。（記：玉越啓子）

### 8月12日(金) (晴れ) 奥穂高岳 3190m・前穂高岳 3090.5m

【コースタイム】穂高岳山荘(5:39)～奥穂(6:45/7:00)～最低コル(8:26)～紀美子平(8:54/9:00)～前穂(9:33)～紀美子平(10:15/32)～岳沢パノラマ(11:40)～岳沢小屋(13:25/14:08)～風穴(15:24)～岳沢登山口(16:08)～西糸屋山荘(16:25)〔泊〕



いよいよ今日はメイン行程である奥穂・前穂縦走の日。緊張で前夜はほとんど寝付けなかったが、窓から見える満点の星空に自分を励ました。早朝5時に朝食を終え、山荘テラスで入念なストレッチを行う。テラスから見える雲海が美しい。奥穂高への登りは山荘の横からそびえ立つ岩山を、いきなりの直登である。寝覚めすぐの急登はきつかったが、高度が上がるにつれ小さくなっていく小屋やテ場、見えてくる槍や笠ヶ岳にいちいち感動する。岩の直登の後、足元に注意しながら不安定なガレ場を登る。目の前に広がる展望に見とれながらも、緊張感のある登りに気を抜けない。

切り立った岩場から、前穂高のギザギザ（北尾根へと続く峰）が大迫力でドーンと見えてきた。ガレ場でしんどいが、振り返ると槍、奥に水晶岳、薬師岳と名だたる峰が見え、どこを切り取っても素晴らしい景観が続き心まで浄化される。奥穂高岳山頂からは、ジャンダルムの上で誇らしげに朝陽をあびて立つ勇者達が見えた。南東には富士山まで見え、晴天に感謝！

日本で3番目に高い奥穂高山頂を堪能した後、吊尾根をたどって前穂に向かう。トラバースや長い長い鎖場の





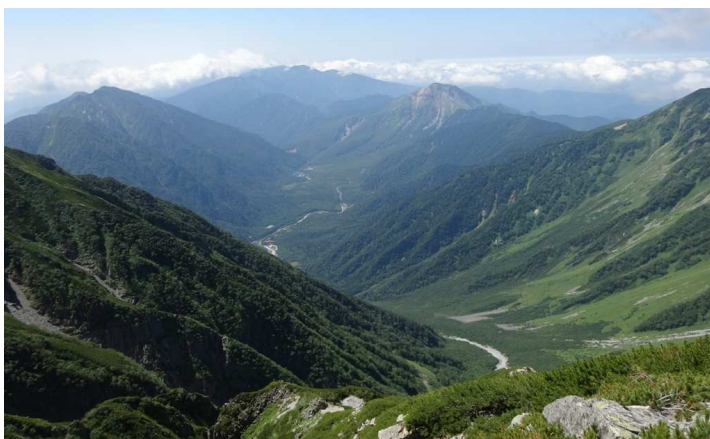
下りに苦労したが、河童橋から見えた吊尾根を今歩いているんだ♪と思うと楽しい。涸沢側にはカールや小屋2つ（ヒュッテと小屋）カラフルなテントがたくさん見えた。最低コルを過ぎトラバース・足場の見えにくい岩場の下りを終えると、やっと紀美子平が見えて安堵する。前穂高岳への登りはハシゴや鎖はないが、○印を頼りにひたすら岩を攀じ登る。空身だし往復1時間だし大丈夫♪・・・なんて甘かった～。息が上がる・・・きつい、でも楽しい。山頂からの360度パノラマは最高で疲れも忘れてしまう。北西に穂高岳山荘が見え、北北西には槍。ここが最後のピークと思うと下山が名残惜しく感じた。

紀美子平からの重太郎新道は、ガした急な下りに鎖やハシゴが続き、浮石も多く落石させまいと足元に気をつかう。下るにつれ陽射しがきつく気温も高くなり、水も切れかけた頃ようやく岳沢小屋に着き大休止。

涸沢小屋で出会い、穂高岳山荘・奥穂山頂とたびたび顔を合わせ楽しませてくれた地元諏訪からの愉快で豪快な5人衆とここでも合流し、仲良く記念写真を撮った。さあ、ここからまだ2時間。既に足の疲れもピークだが、岳沢からの下りは樹林帯に入るし危険箇所もないから安心かな・・・なんて思ってた、これまた甘かった。

行けども行けども足場の悪い下りが続き、癒しスポットの風穴までの道のりが、ものすごく長く感じた。

岳沢登山口まで下りると安堵と達成感と、終わってしまう淋しさが入り混じった気分になった。上高地に入ると爽やかな服装のカップルや河童橋の人混みに、日常の現実に戻ったんだなあ・・・と感じた。振り返ると今日歩いた吊尾根が見えた。



3日間とも晴天に恵まれ、メンバーに恵まれ、初めての夏山アルプスは満足感いっぱいであることが出来た。（記：船江照代）

### 8月13日(土) (晴れ) 上高地

上高地散策～バスターミナル(14:20 発) ⇒ 大阪梅田(22:00 着)

最終日はご褒美 day。朝食前に朝風呂にも入り、山荘に荷物をすべて預け、筋肉痛の足を引き摺りながら、のんびり上高地散策に出掛けた。静かな林道、川の流れ、目の前にドーンと現れる穂高連峰、水蒸気を噴き出す焼岳。木道では子猿を抱えた親子猿に出会えた。今日一番の目的は、上高地のスイーツ堪能である。帝国ホテルの行き届いたサービスでのケーキセット。優雅な時間を楽しんだ♪

入会して2年、夏山デビューを無事終えることが出来たこと、メンバーの皆様、本当にありがとうございました。（記：船江照代）

## 例会山行2

# 越美山地 能郷白山 1,617m

【日 程】 2016年8月21日(日) (晴れ)

【参加者】 L田中悦・SL多賀・村田・今井・中・亀高・玉越 (7名)

【コース】 温見峠登山口(9:55)～昼食地点(11:50/12:35)～山頂(13:00)～祠(13:05)  
～合流(13:35)～四分の一の看板(14:35)～登山口(15:10)



猛暑の奈良を逃れ、奥美濃の能郷白山までやってきた。ダム湖を横にカーブをいくつか過ぎると、温見峠に着く。二百名山の能郷白山には、白山開山の僧・泰澄が開山した南側の能郷谷ルートもあり、こちらは登り3時間30分のコースとある。

車を路肩に止めて、温見峠から出発する。登り始めてしばらくして急登が始まる。両側の木々が生い茂り登山道は狭く、木の根・笹の根が力強く張っているため、足をひっかけないように歩く。雨を含んだ粘土質

の土のところやゴロゴロした浮石、段差が高い登りに苦労し汗が噴き出す。しかしながら危険箇所には黄色いテープ、登りにくいところにはロープが張ってあり、しっかり手入れされている様子が見える。

1,492m (標識なし) のピークを過ぎると視界が開ける。登りもなだらかな稜線歩きになり、一等三角点・能郷白山の山頂に着く。さらに5分ほど進むと見晴らしの良い祠(能郷白山神社奥宮)に着く。このままずっと歩いて行けそうな稜線と、周りの深い山々が360度にわたって見える。白山・乗鞍・御嶽山・北アルプス・立山などの山々が見渡せるということで、積雪期にも登山者が多く訪れそうだ。時折吹く風は涼しく、秋を感じさせる。リンドウが咲き、赤とんぼも飛んでいた。



さて、帰りは同じ道を下らなければならない。上から見ると高度感が増す道をひたすらに激下る。浮石・木の根・粘土質の土に注意しながらゆっくり慎重に下る。歩行時間は短いながらも、充実したハードな山行だった。途中温泉で汗を流し、皆で食事をして帰った。福井まで長時間運転していただき、ありがとうございました。

(記：玉越啓子)



# 西大和つうしん

第411号（2016年9月号）

2016年8月31日発行

発行責任者 島崎 隆

編集責任者 亀高 茂

奈良県勤労者山岳連盟 西大和山の会  
〒636-0003 奈良県北葛城郡王寺町久度 1-9-32

窪田友男方

TEL・FAX 0745-72-2876

<http://www.nishiyamatoyama.com/>